

## ルスカスの夏季管理技術の確立 ～こうじかび病の防除技術の確立～

八丈島のルスカス栽培において、こうじかび病は6月下旬～11月上旬まで継続して発生することを確認しました。こうじかび病に対する換気扇、有孔ダクト、遮光・遮熱剤、UVカットフィルムの防除効果を明らかにしました。

実施機関	八丈事業所	事業名	八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策
------	-------	-----	-----------------------

### 背景・ねらい

ルスカスは八丈島の主要切り薬品目であり、新規就農者の参入等により出荷量がさらに増加しています。一方で、8～12月の出荷量が少なくなってしまうことが課題となっています。出荷量低下の原因として、こうじかび病の発生や夏季の出芽数の減少が挙げられており、8～12月の出荷量を確保するには夏季の栽培管理が重要であると考えられます。本課題では、こうじかび病対策を中心とした夏季の栽培管理技術の確立に取り組みました。

### 成果の内容・特徴

- ① こうじかび病の現地生産圃場における発生調査  
八丈島内5カ所のルスカス生産圃場において、こうじかび病は6月下旬～11月上旬まで継続して発生することを確認しました（図1）。
- ② 換気扇、有孔ダクト、遮光・遮熱塗布剤、UVカットフィルムの防除効果
  - ・換気扇  
換気扇（風量 295 m<sup>3</sup>/min）により施設内温度がやや低くなる傾向がありました（図2）が、こうじかび病については、効果のある年と無い年があったため、効果的な使用条件を明らかにする必要があります（図3）。
  - ・有孔ダクト  
本技術は、循環扇（風量 78 m<sup>3</sup>/min）に接続したダクトの孔から出る風により、ハウス内の温度を下げるができます。こうじかび病については、有孔ダクト区は8月下旬まで慣行区よりも発病葉率が低く推移しましたが、その後増加し、9月下旬には慣行区とほぼ同等となったため（図4）、使用時期に注意する必要があります。
  - ・遮光・遮熱塗布剤  
ハウス天井部にそれぞれ遮光塗布剤レディソルおよび遮熱塗布剤レディヒートの7倍希釈液を塗布したところ、こうじかび病については、レディソル区、レディヒート区とも慣行区と比べ発病葉率は低く推移しました（図5）。
  - ・UVカットフィルム  
八丈島ルスカス共撰共販出荷組合の部会員はUVカットフィルムを使用していないことを確認しました。こうじかび病については、UVカットフィルムにより発病葉率は低くなりました（図6）。

### 成果の活用と反映

それぞれの結果はルスカスの管理マニュアルに反映させ、部会員に情報提供を行います。また、それぞれの管理技術を導入する部会員には、使い方のアドバイス等を行うことで、こうじかび病の発生を抑制し、8～12月の出荷量が増加することが期待されます。今後は、それぞれの管理技術を組み合わせた防除効果について調査を進めてまいります。

（鈴木 克彰）

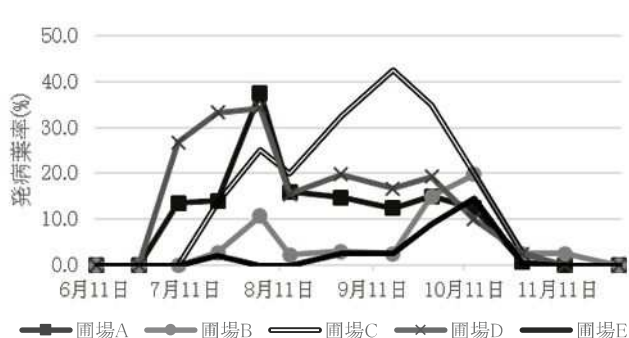


図1 こうじかび病の発生推移

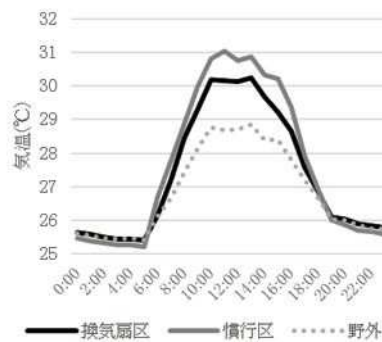


図2 ハウス内気温の日変化  
2020年7月15日～8月15日, 1h 平均値

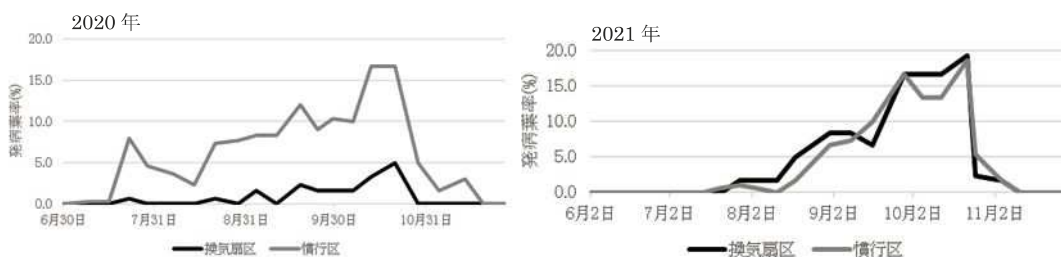


図3 2020年(左)と2021年(右)のこうじかび病の発生推移(換気扇)

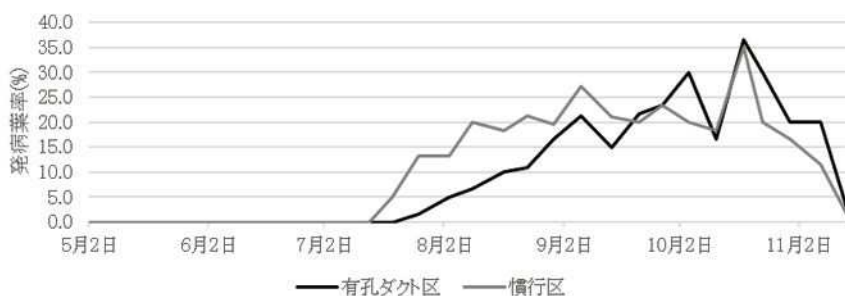


図4 こうじかび病の発生推移(有孔ダクト)

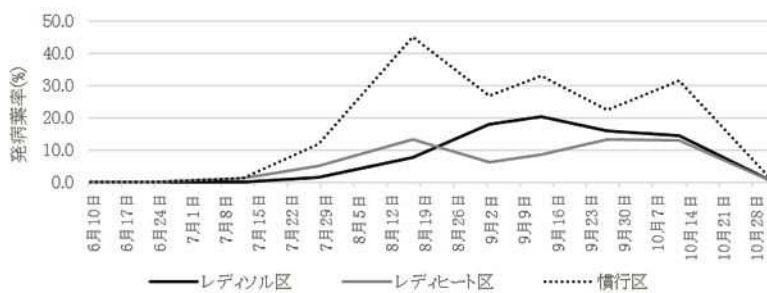


図5 こうじかび病の発生推移(遮光・遮熱剤)

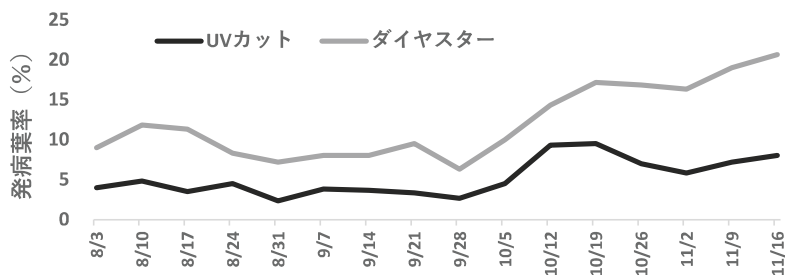


図6 こうじかび病の発生推移(UVカットフィルム)  
10月19日に株元までこうじかび病が発病している葉を除去